

令和元年9月10日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議会改革調査検討特別委員会

委員長 西 田 清 久



委 員 派 遣 報 告 書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し用務を終了したので下記のとおり報告します。

記

1 期間 令和元年8月27日（火）～28日（水）

2 視察先及び調査項目

(1) 京都府福知山市（8月27日 14:00～16:00）

ア 議会改革の取組について

(2) 広島県三次市（8月28日 13:30～15:00）

ア 議員間（自由）討議について

3 参加者 13名（委員11名、事務局随員2名）

①委員長 西田 清久 ②副委員長 牛尾 昭 ③委員 西川 真牛

④委員 村武 まゆみ ⑤委員 柳楽 真智子 ⑥委員 小川 稔宏

⑦委員 野藤 薫 ⑧委員 笹田 卓 ⑨委員 道下 文男 ⑩委員 田畑 敬二

⑪委員 澁谷 幹雄

⑫随員 議会事務局次長 篠原 修 ⑬随員 議事係長 新開 智子

4 視察内容等

【京都府 福知山市】

(1) 福知山市の地理・市勢

京都府北西部に位置し、京都市から 60 km、大阪市から 70 km の距離にあり、明智光秀が築いた福知山城を中心とした城下町として栄えた。明治以降は北近畿の鉄道・道路の要衝で商都として発展。近年は国内有数の内陸型工業団地を有する。市域の林野率は約 76% と山間部が多く、郊外では多種多品目の農林作物が栽培されている。

(2) 福知山市の概要

ア 面積	552.54 km ²
イ 人口	79,095 人、36,132 世帯
ウ 人口密度	143.1 人/km ²
エ 平均年齢	42.2 歳
オ 高齢化率	29.15%
カ 歳出決算総額	401.1 億円
キ 地方税収額	116.8 億円
ク 自主財源比率	40.2%
ケ 交付税依存度	26.0%
コ 財政力指数	0.54
サ 財政健全化比率	実質公債費比率：11.2%、将来負担比率：74.7 %
シ 職員数/人口千人	8.82 人
ス 議員定数	24 人
セ 市長	大橋 一夫 65 歳、1 期目（立命館大学法学部 76 年卒、府議会議員 9 年）
ソ 特産品	松茸、京野菜、味噌、そば、丹波栗、ぶどう
タ 観光	天岩戸神社、福知山動物園、福知山城（郷土資料館）、元伊勢内宮皇大神社

(3) 視察調査内容 議会改革に取り組むについて

ア 情報公開の推進

(ア) 議案賛否の公開～議会だより、市議会ホームページに公開

(イ) 政務活動費の使途・収支報告の公開～市役所情報公開コーナーに常備し、閲覧可能

～平成 29 年度から政務活動費を後払い方式に

(ウ) 役職選出に係る所信表明会の実施～インターネットライブ配信、録画配信を実施

(エ) 委員会審査等ライブ中継・録画配信の導入～議会運営員会で認めたもの

(オ) 議長の議会広報活動～①記者会見②地元FM放送インタビュー③高校生との懇談会

イ 市民参加の推進

(ア) 議会報告会

a 参加者と議員が対話方式で自由な意見交換を実施

b 団体対象形式と地域巡回形式を並行して実施

(イ) 出張委員会の実施～各常任委員会や特別委員会で実施

(ウ) 行政視察等の研修報告会の実施～行政視察や会派視察などを対象

(エ) 高校生フレッシュ会議～18 歳の私たちが思うこと（京都府立大江高等学校 3 年生）

(オ) 議員定数を考える市民意見交換会

(カ) 傍聴者への取組の充実

a 会議資料の充実

b 手話通訳の導入

ウ 議会の機能強化

(ア) 議決事項の充実

a 特別委員会を設置して審査

b 所管常任委員会への付託による審査

(イ) 議員研修の充実

(ウ) 災害御発生時の議会の対応～要領の策定

(エ) 請願審査の充実

a 請願主旨会派合同説明会を実施 ⇒ b 請願の委員会審査を実施

⇒ c 請願者へ請願審査及び採決結果を通知

(オ) 自由討議の推進

a 自由討議実施要領の策定

b 予算・決算審査委員会における『自由討議』の活用

予算・決算審査 ⇒ 自由討議 ⇒ 執行部への「意見・提言」の作成 ⇒ 当初予算執行

(意見集約⇒合意形成を図り

委員会の意見として提言)

(カ) 自由討議を踏まえた意見・提言～予算・決算委員会で、出席委員の過半数の同意

(キ) 議会政策検討会議の設置

提案者(委員会 or 会派 or 議員) ⇒ 議長 ⇒ 議会改革検討会議 ⇒ 議長 ⇒

政策検討会議(全議員) ⇒ 市長等の執行機関へ、政策提言

(ク) 市議会から市長へ政策提言書の提出

(ケ) タブレット端末の活用 (議会ICT化の推進)

(4) 意見交換(抜粋)

Q) 自由討議の提言までの期間と、主な引っ張り役は?

A) 年度当初に初め、9月議会までに骨子を定めて2月中に提言。正副委員長が、熱意をもってやっている。

Q) 一般質問の活性化は?

A) 議員が市民代表として質問すべきであって、執行部とのヒアリングもしっかり行って

いる。

Q) 行政視察に職員が同行とあるが？

A) 共通認識を持つ意味で、大いに意義がある。

Q) 議会の傍聴者数の推移は？

A) 傍聴者は多くはないが、ネットのアクセス数は多い。

Q) 議会報告会に団体対象形式を取り入れられているが？

A) 市民側にも、議員側にも大いに有意義な取組であり、特に「高校生フレッシュ会議」は若者目線の良い意見がたくさん出た。

Q) 会派代表質問の形骸化は？

A) 三月定例会において、一問一答方式で、全会派一律 60 分で行っている。三月議会は、個人一般質問はしない。質問が偏らない対策として、仮通告制を取り、二段階の通告制としている。

Q) 随分と改革を進めておられるが、新たに何か模索しておられるか？

A) 日曜議会を検討したが、いまだ達成していない。まずは、「議会とは何ぞや」から原点に戻ってやることを一番に考えている。

(5) 所感

まず驚いたのは、塩見 議会運営委員長であった。しっかりとした口ぶりでもとも 76 歳とは思えない。さらには 24 名の議員中、共産党が 5 名おられるということにも、この塩見さんの力の強さだろうなとつくづく思った次第であった。

そして、議会改革の取組には目を見張るものがあり、よくもここまで熱心に取り組まれるものだと改めて感心した次第でもあった。第一番目に、徹底した情報公開の推進。第二に、代表質問の方法。第三に、議会報告会の団体対象形式の取入れ。それから、若者の意見を聞く「高校生フレッシュ会議」も苦勞された点や、実り多かった点などが心に残っ

た。また、自由討議のやり方も大変に参考になったところである。議会だよりのカラー刷りの金額についても、浜田市としてもっと考えなくては、とも思った次第である。



【広島県三次市】

(1) 視察調査内容 議員間（自由）討議について

ア 視察の目的

浜田市議会では、議会基本条例で議員間の自由討議がうたわれているが、現在まで実施を見ない。今年度、各常任委員会において政策提言に向けての議論がなされ、委員会ごとのプレゼンテーションがなされ議会としての絞り込みをした。今回、三次市での重要案件についての議員間討議がされたという三次市議会を訪問し、議員間での自由討議の実例をお聞きし、浜田市での自由討議の方法論の参考にする事を目的に意見交換をした。

小田市議会議長のご挨拶を受け、三次市議会 議会改革特別委員会の宍戸稔 委員長と弓掛元 副委員長から説明を受けた。

(2) 意見交換

Q) 自由討議の実際の状況について

A) 予算決算委員会と三常任委員会で自由討議を設けているが、正副委員長の舵取り、妖怪博物館は約七千名の反対署名が出た。担当委員会での自由討議になった。この1回しかしていない。

Q) 予算決算委員会で議事延期をして自由討議はされたのか。

A) 賛成反対で拮抗した課題で自由討議をしないと、ただの井戸端会議になる可能性がある。討議は賛成反対では無い議論が必要だ。

Q) 妖怪博物館の展示方法や入館・収支予想で議論されたようだが？

A) 総務常任委員会で挙手により発言し意見を出した。反対署名も出ていたので、結果的に直接市長と議論できる場を設営した。(結論を出す過程の場として)

Q) その後、自由討議は無かったのか。

A) 議員は議決責任があるので、その前に自由討議は必要だと思う。

Q) 課題が有り結論を出す前の議論と捉えて良いか？

A) 議会基本条例にうたっているが、無理をして討議する必要は無いと思う。

Q) 妖怪博物館の運営コストについての議論は出たのか？

A) 民間では無いので収支や人件費などは判りにくい、波及効果も計りにくい。

Q) 予算は議決後か。

A) 予算を議決し、その後地元住民の理解をさらに求めた。

Q) 反対の市民にどのような理解を求めたのか。

A) 執行部は説明会を積極的にするようになった。

Q) 市民の為には何か一番良いのかの議論だったか。

A) 市長の想いもある。議員は正面から反対と言いにくいと思う。

(3) 所感

三次市議会において平成 18 年 2 月に議会活性化等調査特別委員会において『議会改革プラン』を策定し四点の柱①議会改革の基本理念②議会改革の必要性③議会改革の目的④議会改革の進め方、をもとに次々と改革を進められた。

その結果、2018 年度の議会改革度ランキングにおいて 34 位である。中でも住民参加と機能強化はそれぞれ 15 位と 21 位で見習うべきことが多い。

浜田市議会においても議会改革を進めているが、今回の視察で言論の府である議会の『議論をする』という事に対し環境整備を進めることの必要性を感じた。



